

— 時を旅する鳥が見たある日の世界 — ^{さかい}



住吉祭礼図屏風
(すみよしさいれいずびょうぶ)

さく・・・百舌鳥小学校 放課後ルーム
ぶん・・・いまいまさこ
え・・・とついでいこ
でざいん・・・みせけいこ

さかい
『時を旅する鳥が見たある日の堺』は
住吉祭礼図屏風から生まれました

すみよしさいれいずびょうぶ

堺親善大使（さかいしんぜんたいし）で、脚本家（きゃくほんか）の
今井雅子（いまいまさこ）さんを講師（こうし）にむかえ、
小学生を対象とした「ドラマティック堺（さかい）さがし
ワークショップ」をかいさいしました。

「住吉祭礼図屏風（すみよしさいれいずびょうぶ）」
にえがかれた人々の時代やキャラクターを想像
（そうそう）し、本当の歴史におこったことでなく、
ゆめのお話を組み立てることで、この屏風（びよ
うぶ）に親しみを感じてもらうことが目的です。

百舌鳥（もず）小学校の子どもたちが参加（さん
か）し、7つのグループに分かれて、「住吉祭
礼図屏風（すみよしさいれいずびょうぶ）」から
登場人物をえらび、物語を考えました。

そしてとうとう・・・

ワークショップから誕生したキャラクターたちのお話が完成。
「時を旅する鳥が見たある日の堺（さかい）」として
今井雅子（いまいまさこ）さんが創作（そうさく）していただきました。

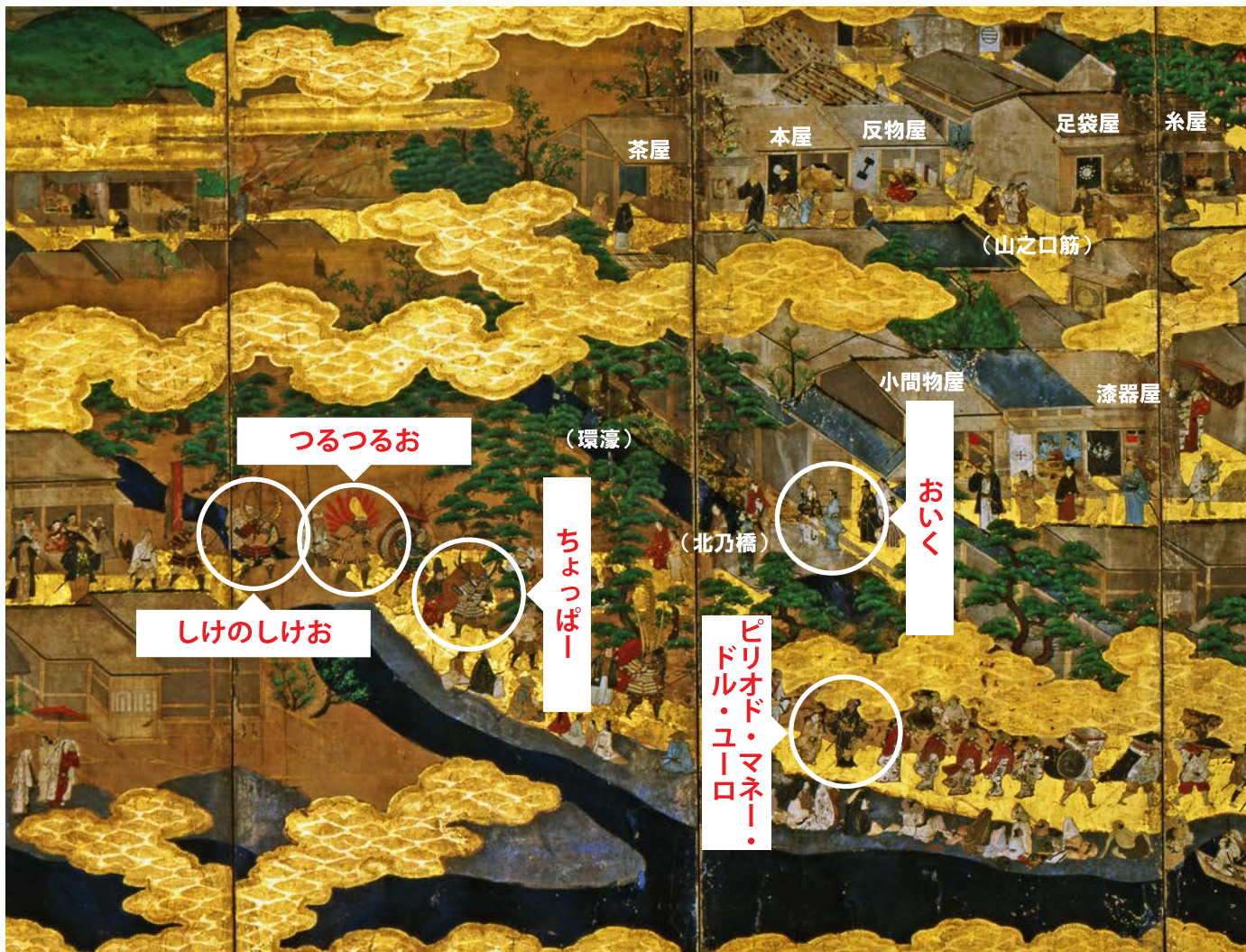
すみよし さいれい 『住吉さんの祭礼』 ってなあに？

今から約 400 年前～戦国時代から江戸（えど）時代のはじめ、梅雨（つゆ）や夏には伝せん病がものすごくはやりました。

住吉（すみよし）のお祭りは、大阪（おおさか）の町全体を清めるための「お祓（はら）い祭り」。住吉大社（すみよしたいしゃ）から堺（さかい）の宿院御旅所（しゅくいんおたびじょ）まで神輿（みこし）がわたり、堺（さかい）の町人たちによる南蛮人（なんばんじん）の仮装や戦国武将（ぶしょう）の母衣武者（ほろむしゃ）などがにぎやかにパレードします。



すみよしさいれいずびょうぶ
 “住吉祭礼図屏風” をのぞいてみよう



ほろむしや
 母衣武者三人衆

武将（ぶしょう）になりきった町の人たちが、動物やちようちよなどの母衣（ほろ）を着て、力強さやあでやかさをアピール。昔は、こうげきから身をまもるために母衣（ほろ）が使われたそうです。
 お話ではどんな役で登場するのでしょうか。

しけのしけお



つるつるお



ちよっぱー



みんなが選んだ7人の登場人物を探してみよう！



さむらい



きらびやかな着物で参加するおさむらいさん。お話では気の強い女戦士役で登場します。



ピリオド・マネー！
ドル・ユーロ

町人



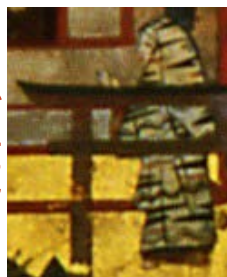
おいく

美しい着物を着ている町の人。お話ではむすめ思いのお母さん役で登場。



神社でねっしんにお参りをする人。お話ではお酒好きのお父さん役で登場します。

ごえもん



ひよわさけたろう



神様におそなえする魚を料理しているところ。お話ではこわいお母さんとくらす気弱なお父さん役です。



お知らせ

何百年（なんびゃくねん）も前に えがかれた屏風図（びょうぶず）は
大仙公園（だいせんこうえん）の
「堺市博物館（さかいしはくぶつかん）」に、
登場人物は 宿院（しゅくいん）にある
「さかい利晶の杜（さかいりしょうのもり）」で出会えます。



（さ
か
い
し
は
く
ぶ
つ
か
ん）
堺市博物館

JR 阪和線（はんわせん）
「百舌鳥」駅（もずえき）

南海（なんかい）バス
「堺市博物館前」停留所
（さかいし はくぶつかんまえていりゅうじょ）

大仙公園内（だいせんこうえん ない）

阪堺線（はんかいせん）
「宿院」停留場（しゅくいん ていりゅうじょう）

南海（なんかい）バス
「宿院」停留所（しゅくいん ていりゅうじょ）

おりてすぐ

（さ
か
い
り
し
ょう
の
も
り）
さかい利晶の杜





さあ、ものがたいがはじまるよ



みんなで作ったものがたり

7人の登場人物を
ご紹介します



“しけのしけお”ものがたり
さく／ドルフィングループ

P 4

“志家野志家男（しけのしけお）”

25才、どくしん。強そうな外見のとおり腕（うで）の立つ男ですが、このままでは結婚（けっこん）できないのではないかとなやみ、朝からずっとナンパしていたとか。そんな彼（かれ）のゆめは、殿様（とのさま）になることです。



P 5

“つるつるお”ものがたり
さく／サルグループ

“弦鶴男（つるつるお）”

とびきり派手ないしょうをまとったこの男は170才！？129人家族！？しゅみはけんどう、好きな食べ物はどうどん。頭をよぎるのはうどんを食べることだけ。いろんな場所の名物うどんを食べたいというゆめがあります。



“ちょっぱー”ものがたり
さく／ミジンコグループ

“著津波亜（ちょっぱー）”

30才、どくしん。動物のツノをかぶった男。北海道から沖縄（おきなわ）まで歩いて、堺（さかい）に帰って来たばかり。つかれきったので、お酒を飲んで街をブラブラしようたくらんでいるところ。ゆめは動物になること？！好きな食べ物は人間…？！とんでもなくキケンな男の登場です。

P 6





“ピリオド・マネー・
ドル・ユーロ”ものがたり
さく／ハヤブサグループ

“ピリオド・マネー・
ドル・ユーロ”

P 7

45才、子どもふたりの3人家族。たかそう
な着物をきているお金持ち。好きなたべもの
はサーロインステーキ。ダイエットして
イケメンと結婚（けっこん）することがゆめ。
今朝、外国からの手紙をうけとりました。



“ごえもん”ものがたり
さく／カピパラグループ

“五右衛門（ごえもん）”

30才、妻（つま）、3人兄弟の5人家族。
なやみは子どもたちが相手にしてくれないこ
と。子どもたちは何よりもお酒が好きなお父
さんが嫌（きら）い。子どもたちにふりむい
てもらいたいし、りっぱなお侍（おさむらい）
さんになりたいと願うけれど、お酒がやめら
れません。

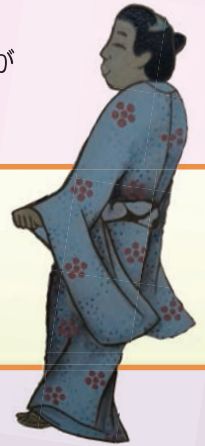
P 9

“おいく”ものがたり
さく／レッサーパンダグループ

P 8

“お育”

27才、夫、4人の子どもの持つお母さ
ん。仕事は布（ぬの）を織（お）って着
物をつくるデザイナー。娘（むすめ）
にどんな着物をきせようか思いを
めぐらせますが、
なかなかよいデザインが
かんがえつきません。



“ひよわさけたろう”
ものがたり
さく／チョウザメグループ

“日世輪酒太郎
（ひよわさけたろう）”

35才、妻（つま）、子どもの3人家族。
妻（つま）のしりにしかれる気弱な男。
日ごろから家事ぜんぱんをまかせられ、
楽しみは妻（つま）にかくれて月をみなが
らお酒を飲むこと。せんたくしなが
ら考えるのは、大好きな妻（つま）のこ
とだけど、妻（つま）には
うわきをうたがわれ
ています。

P 10



2

はじめのものがたり

鳥は金色にきらめく翼（つばさ）を広げ、ゆったりと空を舞（ま）っていました。
はるか下にみえるのは、お侍（さむらい）さんがいた時代の堺（さかい）のまち。

めじるしのように大きな古墳（こふん）が横たわっています。

その丘（おか）は遠い昔の帝（みかど）のお墓（はか）だと

当時の人々は伝えきいていますが、

丸と台形をくみあわせた鍵穴（かぎあな）のようなかたちをしていることは、
まだ知られていません。

だれも古墳（こふん）を上からみたことがないのです。

飛行機も高層（こうそう）ビルもなかった時代。

もちろんテレビやスマホどころか、ラジオも電話もまだ生まれていません。

季節は夏の終わり。今日は年にいちどの「住吉（すみよし）さんの祭礼（さいれい）」の日。

北の住吉大社（すみよしたいしゃ）を出た行列が、

南にある堺（さかい）の町へやって来ました。

きびしい夏をのりこえ、この先の一年も

家族が無事（ぶじ）にすごせることをいのって、

色とりどりの装束（しょうぞく）をまとった町人たちがねり歩いています。

先頭では、住吉（すみよし）さんのお使（つか）いのうさぎが、

跳（は）ねながら道案内をしていることでしょう。

鳥には、ふしぎな力がありました。

人間が頭のなかで考えていることが、声に出した言葉のように聞こえるのです。



しけのしけお ものがたり



「あーあ。このままりっぱな侍大将（さむらいだいしょう）になって、殿様（とのさま）までのぼりつめたいものだな」

そんなことを考えながらねり歩いているのは、志家野志家男（しけのしけお）です。

25才になったところ。まだひとり者で、親のすねをかじっています。

殿様（とのさま）になりたいなどといいながら、何の努力もしていません。結婚（けっこん）したい気持ちはありますが、およめさんを探（さが）すのは面倒（めんどろ）です。

そんな志家男（しけお）ですが、通りかかった糸屋の看板娘（かんばんむすめ）に、「おはようさん」と声をかけました。

今日は武将（ぶしょう）のかっこうをしているので、ちょっぴり気が大きくなったのです。

けれども、志家男（しけお）はどうしようもない意気地（いくじ）なしでした。野良犬（のらいぬ）にびっくりして大声をだしたために、りっぱな装束（しょうぞく）のすそが犬に噛（か）みつかれ、ちぎれてしまいました。

「これって殿様（とのさま）にお借りしている大切な装束（しょうぞく）とちゃうんやろか。どないしょ」と志家男（しけお）はあおざめました。

その一方で、

「祭礼（さいれい）の列に飛びかかってきた野良犬（のらいぬ）をおい払（はら）おうとして装束（しょうぞく）がやぶれた、いうことにしたらどうやろ。殿様（とのさま）に気に入られて、お城（しろ）ではたらかせてもらえんやろか」

とずるい考えも頭にうかぶのでした。

「ついでに殿様（とのさま）の娘（むすめ）がよめさんになってくれたら、一生ラクできるなあ」

そんなことばかり考えている情（なさ）けない若者（わかもの）です。



つるつるお ものがたり



「ああ、うどん食いたいなあ。
長い行列よりも長いうどん。
うどんうどん、うどん食いたい」
頭のなかでうどんが
渦巻（うずま）いている男は、
弦鶴男（つるつるお）です。



ご近所さんからは「つるつるさん」とよばれています。

歳（とし）は170才といううわさです。ほんとうは70才ですが、
「うどんを食べると長生きするらしいで」
「つるつるさん見てみ。お肌（はだ）つるつるやん」
と、うわさ話に尾（お）ひれがついたのです。

子どもは129人いるといううわさです。

本当は、子どもは9人で、孫（まご）が40人、ひ孫（まご）が80人、
全部あわせて129人なのですが、これまたうわさ話に尾（お）ひれがつ
いたのです。

「この後、何うどん食べよかな。肉うどんにしようか。冷やしうどんがえ
えな。すだちをきゅっとしぼって、つるつるっと食べよか」

うどんのことを考えていると、足取りが軽くなり、つるつるさんはずん
ずん進んでいきました。

その後ろすがたをみて、

「つるつるさん、元気やわあ」

「あの人、もう200才らしいで」

「子どもも200人おるらしいで」

つるつるさんの長生き伝説は、うどんのように長く長くのびていきます。

ちょっばー ものがたり



「朝起きて、蝦夷（えぞ）から堺（さかい）まで歩いて来たので、腹（はら）がへった。人間を食いたいな。どの人間を食うとしようか」

そんな物騒（ぶっそう）な声がきこえてきました。

まさか、住吉（すみよし）さんの祭礼（さいれい）に人食い男がまぎれこんでいたとは…。

しかし、かぶとに囲まれた顔に鳥が目を凝（こ）らすと、

瓦版（かわらばん）というよみものを書いている著津波亜（ちょっばー）でした。

「ああよかった、お話にでてくる人食い男のこころの声だったのか」と鳥はほっとしました。

「どの人間がうまそうかな。男のほうが食べごたえがありそうだな。よし、あの男を食ってやろう」

すっかり人食い男になりきっている著津波亜（ちょっばー）は、火縄銃（ひなわじゅう）をかまえました。

あの男とは、先ほど著津波亜（ちょっばー）を追いかけていったつるつるさんです。

つるつるさん伝説（でんせつ）の危機（きき）です。何とかしなくては…。

あせった鳥は、「こうなったらしかたがない」と覚悟（かくご）を決めました。



ぼちゃん。

著津波亜（ちょっばー）の頭の上に、生温（なまあたた）かくてやわらかい何かが落ちました。

「わ、なんやなんや。うっわー。鳥の糞（ふん）やー」

鳥の落とし物で著津波亜（ちょっばー）は現実（げんじつ）に引きもどされました。

こうして、つるつるさんとつるつるさん伝説（でんせつ）は無事（ぶじ）守られたのでした。

ピリオド・マネー・ドル・ユーロ ものがたり



行列のなかから、いらだった女のこころの聲がきこえました。
「何もかもが思いどおりにいかない。娘（むすめ）はいうことをきかないし、娘（むすめ）の便秘（べんぴ）はなおらないし、私の肥満（ひまん）もなおらない。
こんなに歩かされて、出会いもないし、やせないし、1ドルももらえないなんて、くたびれ損（ぞん）だ」

彼女（かのじょ）の名はピリオド・マネー・ドル・ユーロ。
たいそう風変わりな名前ですが、かんがえていることも変わっています。

「ああ黒毛和牛のサーロインステーキを食べたい。400グラムだって、ぺろりと平らげられる」

サーロインステーキということばを堺（さかい）の町人たちが知るようになるのは、ずっと後の時代です。

もしかしたら、彼女（かのじょ）にも、時を旅する力があるのかもしれない。

「アカガミがなんだ。ミカドに抗議（こうぎ）してやる。戦争なんかにいったら、黒毛和牛が食べられなくなるじゃないか」

アカガミというのは、何百年も後の世界大戦中に戦地へ送りだされることになった男の人に届（とど）けられたあの赤紙のことでしょうか。

けれど、ピリオド・マネー・ドル・ユーロは女です。

彼女（かのじょ）が怒（おこ）っているのが、いつの時代のどこの国の戦争のことなのかわかりません。

でも、いつの時代でも、どこにいても、好きなものをおなかいっぱい食べられるのが、平和ってことなのだなあと鳥は思いました。



おい ものがたり



「どんな着物がええやろか」
祭礼（さいれい）を見物しながら思い悩（なや）んでいるのは、近くの反物屋（たんものや）ではたらいているお育です。
お育の考える絵柄（えがら）は、お店でもたいそうな評判（ひょうばん）でした。
通り過（す）ぎる行列を熱心なまなざしで見つめているのは、仕事のためでしょうか。
いいえ、別な理由があるのです。
お祭りにきていく着物を反物屋（たんものや）のおかみさんに借りたとき、お育は、おかみさんにこういわれたのです。
「お優美（ゆみ）ちゃんにきれいなおベベこしらえたり。反物代（たんものだい）と仕立代（したてだい）は、うちからのお祝いや」

お育の娘（むすめ）のお優美（ゆみ）は、10才になったばかり。
お育が反物屋（たんものや）へはたらきにでているあいだ、食事をつくったり、そうじをしたり、妹や弟の面倒（めんどう）をみたり、はたらき者でこころやさしい女の子です。



「あの色は好きやけど、子どもには派手（はで）やなあ」
「あの柄（がら）は、お優美（ゆみ）にはにあわんかなあ」
いつもはどんどん絵柄（えがら）が思いつくというのに、なかなか考えがまとまりません。

お優美（ゆみ）は、絵を描（えが）くのが大好きです。
「どうやったら、お母さんみたいにかけるようになるん？」とお優美（ゆみ）にきかれると、
「毎日かいていたら、どんどん上手（じょうず）になるんや」とお育はこたえます。
そういえば、とお育は思い出しました。
「私も大きくなったら、おベベの絵柄（えがら）考える人になりたい」とお優美（ゆみ）が言ったことがあったのです。
「そうや。お優美（ゆみ）にかかせたろ」
お育は、早くお優美（ゆみ）に伝えたくて、急ぎ足で家へむかいました。
おかみさんに借りた上等（じょうとう）な着物のすそがはだけないよ
うに気をつけながら。

ごえもん ものがたり



「あーあ。うちに帰りたくないなあ。どこで時間つぶそか」
うかない顔をしている男は五右衛門（ごえもん）といます。
朝、家を出るとき、子どもたちはお父さんに遊んでほしくて、
「お父ちゃんいかにといて」と五右衛門（ごえもん）の着物の袖（そで）
をつかんで引き止めました。
「年に一度の大事な住吉（すみよし）さんの祭礼（さいれい）なんや」
と五右衛門（ごえもん）が振り払う（ふりはらう）と、
「お父ちゃん、お酒飲みたいだけやろ」と長男の太郎（たろう）がい
いました。
「アホなこといいなや。住吉（すみよし）さんのバチがあたるで」
五右衛門（ごえもん）は思わず太郎（たろう）を突き（つき）飛ばし
ました。
「お父ちゃんのアホ。お父ちゃんなんかきらいや」
太郎（たろう）が泣き、弟の二郎（じろう）と三郎（さぶろう）も
「お父ちゃんなんかきらいや、きらいや」とわめきました。

たしかに、五右衛門（ごえもん）は祭礼（さいれい）の後に飲むお酒
が楽しみだったのです。
けれど、五右衛門（ごえもん）は今年の行列には加わりませんでした。
こんなうかない顔でねり歩いたら、住吉（すみよし）さんのバチがあ
たりそうな気がしたのでした。
そのかわり神社（じんじゃ）に立ちよって、家族の無事（ぶじ）と安
全を願うお守りを買いました。

少し気持ちが軽くなった五右衛門（ごえもん）は、大好きなお酒を飲
みました。
ところが、お酒を飲むと、また朝のことがいまいまいしく思いだされて、
「アホたれ。おれはこんなに家族のことを考えたってのに、あいつ
ら、なーんもわかってへん。だいたい、女房（にょうぼう）があいつら
をあまやかすからや」
おや、せっかく買ったおまもりが、足もとに落ちてしまっています。



ひよわさけたろう ものがたり



「なんでわかってくれへんのやろ」
神社におさめる鯉（こい）をたらいで
洗（あら）いながら、暗い顔をしている男は、
日世輪酒太郎（ひよわさけたろう）。
ひ弱で気が弱く、酒のちからを借りなければ
いいたいこともいえません。

女房（にょうぼう）のお熊（くま）は、
酒太郎（さけたろう）よりも体が大きく、
声も大きく、クマがおそいかかってくるたら
素手（すで）で倒（たお）してしまいそうな強い女です。



お熊（くま）が地鳴りのようないびきをかいてねむるそばで、
月を見上げて酒を飲む時間が、酒太郎（さけたろう）は幸せでした。
ところが、さくばんのこと。いつものように酒太郎（さけたろう）がひとりで
酒を飲みはじめると、お熊（くま）が突然（とつぜん）がばっとおきて、酒太郎（さ
けたろう）をせおい投げしました。

「あんた、うわきしてるやろっ」

「うわきなんか、してへん」

「うそや。わかい女とこっそり会ってたやろっ」

すごみのあるお熊（くま）の大声に障子（しょうじ）の紙が震（ふる）え、酒太
郎（さけたろう）も震（ふる）えあがりました。

「うわきなんか……そんなこわいことできるわけないやろ」
畳（たたみ）に打ちつけた痛（いた）みが残る腕（うで）を動かしながら、酒太郎
（さけたろう）は鯉（こい）を洗（あら）います。

「わかい女なんかしらん。いいがかりもええとこや。女房（にょうぼう）に内緒
（ないしょ）なんか……」

ふと酒太郎（さけたろう）は手を止めました。

「もしかしたら……」

神社におさめる鯉（こい）をさばいたときにでる骨（ほね）や内臓（ないぞう）
などの「あら」を、特別に持ち帰ってもいいと巫女（みこ）さんが酒太郎（さけ
たろう）に伝えにきたことがありました。

それをたまたまお熊（くま）がみていたのではないだろうか……。

「なんや、それやったら、鯉（こい）の「あら」をお熊（くま）にみせたったら、
すむ話や」

そう思って、酒太郎（さけたろう）はほっとした顔になりました。

「それにしても、お熊（くま）のやつ、
おれを投げ飛ばすほどヤキモチ焼いとったとはなあ」

酒太郎（さけたろう）はにやにやしな
ながら鯉（こい）を洗（あら）いました。

まだまだきいてみたい気持ちはありますが、
体力を使いきってしまう前に、寝床（ねどこ）へ帰ったほうがよさそうです。
鳥は何百年もかなたの堺（さかい）のまちをめざして、
金色の羽根（はね）をはばたかせました。

建物が空へ向かってのび、舗装（ほそう）された道を自動車が
ゆきかうのがみえてきました。
遠い昔の帝（みかど）がねむるといわれる古墳（こふん）には、
あたらしい木々が植えられ、うつくしい森がかたちづくられています。



そこは、反物屋（たんものや）のお育て酒飲みの五右衛門（ごえもん）の
孫の孫の孫たちがぐらす今の堺（さかい）のまちです。
ひ弱（よわ）な酒太郎（さけたろう）と
強いお熊（くま）夫婦（ふうふう）の孫たちもくらしています。
うどんを食べて長生きのつるつるさんの孫たちは何人になったのでしょうか。
面倒（めんどう）くさがりやの志家男（しけお）が
結婚（けっこん）できたかどうかはわかりません。
ピリオド・マネー・ドル・ユーロが戦争へ行かずにすんだのかはわかりません。
著津波亜（ちょっばー）の書いた人食い男の瓦版（かわらばん）が
評判（ひょうばん）になったのかどうかはわかりません。

けれど、鳥がみてきた祭礼（さいれい）の日と今は、たしかにつながっています。
あの日から毎日がつながって1年になり、
100年になり、21世紀の今があります。



おわりのものがたり

そして、「住吉（すみよし）さんの祭礼」は今も受け継（つ）がれています。
昔とはいくぶん姿（すがた）を変えています。この先一年も
家族が無事に過（す）ごせるようにと祈（いの）る人々の気持ちは変わりません。
これからも、いつの時代も、変わらないことでしょう。

建て替（か）えが始まった堺市民会館（さかいしみんかいかん）が見えてきました。
その前を走る大通りは、フェニックス通りです。

70年前の世界大戦で堺（さかい）の町は大部分が焼けてしまいました。

たくさんの方が家族を失い、家を失い、希望を失いました。

赤紙で戦争に取られた男の人たちの多くも命を落としました。

その後、町の復興（ふっこう）を願って、「不死鳥（ふしちょう）」を意味する
フェニックスの木が町の中心に植えられたのでした。

その木の一本に鳥は静かに吸（す）い込（こ）まれていきました。

おわり





堺市立

小学校



平成 28 年 3 月発行